

企画名：福島市の野生ニホンザルにおける放射線被ばくの次世代影響評価(3年目)

団体名：羽山伸一

1. 報告要旨

東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の爆発で放出された放射性物質に、福島県東部に生息するニホンザルが野生霊長類としては世界で初めて被ばくした。申請者は2008年から福島市に生息する本種を対象に妊娠率などを観測してきたが、本研究では、次世代影響を評価するため、被ばく後10年間における筋肉中セシウム¹³⁷蓄積量の推移を解明するとともに(Hayama et al. 2022)、胎子成長の経時的変化を観察し、胎子成長と母サルの相対的内部被ばく量との関連性を明らかにした(Hayama et al. 2023)。

2. 成果物

1. Hayama et al. 「[Time dependence of ¹³⁷Cs contamination and transfer factor in wild Japanese monkeys after the Fukushima Daiichi nuclear accident](#)」 Environmental Science and Pollution Research 29 : 88359-88368 (2022.10.29)
2. Hayama S. et al. 「[Influence of radiation exposure to delayed fetal growth in wild Japanese monkeys after the Fukushima accident](#)」 Frontiers in Veterinary Science 10:1151361 (2023.4.26)